

## 浜松市議会行財政改革・大都市制度調査特別委員会会議録（抜粋）

### 開催日時

令和3年8月31日（火）午後2時開議

### 開催場所

第1委員会室

### 会議に付した案件

- 1 行政区再編協議  
(1) 天竜区の取扱いについて

14:00

### 行政区再編協議

#### ◎結論

天竜区の取扱いについて、各会派ごとに単独・複合の意見を述べた後、委員間討議を行い、単独の取扱いとすることを決定しました。

#### ◎発言内容

##### (1) 天竜区の取扱いについて

○高林修委員長 それでは、協議事項に移りたいと思います。

天竜区の取扱いについて、各会派から協議結果を発表してください。

○加茂俊武委員 自由民主党浜松です。

天竜区の扱いについては、我が会派は単独でいくということで決定いたしました。

理由としまして、天竜区はそれぞれ地域特性を持った旧5市町村の複合体で、クラスター型の区であるというところ。それから、過疎化、超高齢化が急速に進んで、雇用環境や教育、医療が脆弱で、災害の発生も多い。それから、行政に期待するところもそういう意味で非常に大きいというところ。その原因は、区域の大部分が中山間地域という地勢的な特徴によるもので、他区と一緒にしても問題解決にはならない。それから、天竜区の将来ビジョンを掲げ、過疎化対策を生活、産業、人、伝統などをキーワードに、地域住民と行政が一体となって課題解決に取り組むことが大変重要であるというところ。

2番目として、天竜区民のみというところ、天竜区の自治会連合会から単独区の要望が提出をされているというところ。それから、我が会派で自民党天竜支部党員のアンケートを行い、80%以上が単独を希望しているというところ。

3番目として、天竜区選出議員の確保というところ、現議員数が3人で、他区と比べてある程度優遇をされていますが、区域を広げて均一化するというところ、地域選出の代議員の減少が多少危惧されるという点。

4番目として、これは直接単独区と関係があるかどうかですが、担当副市長の設置は会派内で懸念する声が多く出ています。単独区イコール区担当副市長の設置ではないという意見が今会派の中で

は大勢を占めています。

以上の理由から、自由民主党浜松としては、天竜区は単独というところで決定いたしました。

説明は以上です。

**○高林修委員長** それでは、次は創造浜松、太田利実保委員。

**○太田利実保委員** 創造浜松です。

まず結論を申し上げる前に、これまで我が会派としまして週1回という頻度で毎回議論を重ねてきて、区の数については最小限にとどめるべきでないかということで、すんなりと意見が収れんできましたが、この行政区の境についてはなかなか結論が出ることに至らず、昨日ようやく苦渋の一本化に至ったということです。それは天竜区についての本市における重要性の認識の大きさであって、広大な面積と抱える諸課題の深刻さと多様性、将来にわたる持続性などを考慮したとき、どちらの案のほうがより有効であるかということであって、立脚する位置による相違でもありました。

直近の委員会において、平成25年に公表された人口推計の提出をお願いして、それ以降の人口実数の推移は、今日配付された資料でございますけれども、その委員会以降にも会派として疑問に思っていた8項目にわたる確認・質問事項を提出して当局から回答をいただきました。それを基に結論を出したということです。

確認事項でございますが、もし委員長にお許しをいただければ、皆さんに共有というか、参考に分けさせていただきたいのですが、いかがでしょうか。

**○高林修委員長** その確認事項を示しながら、最終結論に至るといような段取りでいいですか。

**○太田利実保委員** そうです。経過の中でそういうことで、特にそれを議論するというものではございませんが、参考に。

**○高林修委員長** それでは、用意をお願いします。

[資料配付]

**○太田利実保委員** 後ほど御覧いただくということで、議論する中でこういった確認事項をさせていただいたということで御承知おきいただければと思います。

結論を申し上げますと、天竜区単独案を支持させていただきます。その理由としては、市域の6割を占める広大な面積を有していて、区域の9割が森林であります天竜区、地球温暖化対策や水源涵養など多面的な役割を持っていますので、本市にとって大変重要な区域だと認識しています。今後人口が減少したとしても、その重要性に変わりはありません。また、著しい人口減少、過疎化の進行による様々な特有の課題を抱え、それに対応した行政支援が必要な地域であります。人口減少が著しいということで、区として存続していくことが行政効率としては課題が残る部分もあるかと思っておりますけれども、先ほど申し上げました天竜区の重要性を考えれば、区役所という行政拠点を置くことの必要性が増すのではないかと考えました。

以上のことから、天竜区の地域特有の課題に対する的確な施策の実施のために、天竜区を単独区とするということには合理性があるという結論に至った次第であります。

そして、ここからは意見・要望という形になるかと思えます。

天竜区単独とすることを契機としまして、先ほど申し上げましたとおり、地球温暖化対策の多面的な機能を有する天竜区の大変な森林や河川、そしてそこに住んで、環境を守っているということの重要性を改めて市民の皆様に御認識をしていただき、これまで同様、オール浜松体制、一つの浜松として天竜区のことを考えていくことが大切であろうと思えます。

一方で、天竜区を1つの区として維持していく以上、人口減少がさらに加速する中であっても、地域福祉や自主防災など、住民自治の部分において、区域住民により主体性を持って行うことを天竜区住民自らが考えていく必要もあるのではないかとこのように考えます。そうした意味で、天竜区の将来推計人口、令和22年には1万5000人になることが示されていますし、その人口構成では若年層や生産年齢人口はさらに減少していくことが予想されること。それ以外にも重要なデータを全てオープンにする中で、天竜区の将来ビジョン、こうしたものを地域の住民の皆さんと行政の間で早急に検討していただく必要があるのではないかと思います。それを検討していくことによって住民の将来への不安を解消することや、行政側の天竜区への関わりを明確にしていくということが大事なことだと考えます。

以上です。

**○高林修委員長** それでは、次は公明党、松下委員。

**○松下正行委員** 公明党としては、最初に結論を言いますと、複合化ということで会派ではまとまりました。天竜区を複合化にするということは、前期の議論から公明党はずっと複合ということで徹底してきました。今回もまた再度、会派の中で議論をさせていただきましたが、最終的には複合ということになりました。それで、その理由を幾つか述べさせていただきますと思います。

やはり最大のポイントは、天竜区を単独にした場合、本日配付された推計人口によりますと、国勢調査の実績でいくと、令和2年度が2万6733人ということで、これが令和12年になりますと、2万571人になり、さらに令和17年度は2万を切って、1万7785人になるという推定をしているわけでありまして、まちづくりをするためには、行政だけではできないと思っております、当然一番下になる地域住民、それはいわゆる人ということになりますので、人口減少が進んでいく中で、この広大な天竜区を今の住民だけでやっていけるかということが懸念されるということでございます。

また、単独ということ、現行の7区のままということですので、いわゆる今の天竜区に住まわっている住民、市民がどれだけ今回の区の再編で意識改革を持ってまちづくりをしていこうと、市民自らの意識改革ができるかどうかということが、また2番目のポイントになると思います。我々は複合になれば、新しい市民との交流とか意見交換し、さらに天竜の人口が減っても発展すべく、あらゆるアイデアとか、住民主体の住民自治の中で発展させていこうという市民の意識改革ができるのではないかと考えているところでございます。

それから、重複すると思いますが、3番目としては、やはり行政当局と住民がいかにしっかりと協働でまちづくり、福祉、様々なものに取り組んでいけるかということが3つ目のポイントになると我々は考えました。先ほども言いましたが、単独ということになりますと、今の現行の天竜区と全く変わらないという中で、どんどん人口が減ると推計されています。そういう中で、将来の浜松の中の天竜区というところがどのように発展できるか、今のデメリットを解消できるのか、ここが3つ目のポイントとされているところでございます。

4番目は、今までの当局の資料の提示の中でも、天竜区はほかの6区と違うところは、やはり施設が非常に特筆して多いということと、それから自然災害がほかの区と全くレベルが違う多さということで浜松市の対応も非常に苦慮している現状がございます。こういったことを見ても、天竜区単独ではなくて複合にして、みんなで天竜を発展させていこう。また、そういった課題について当局としっかりと協働で取り組んでいこうというふうになっていけばいいと思っております。

それから、5番目ですけれども、これは先ほども言ったように、人口推計によって人口が減っていくという状況がございます。そうしたときに、また区の再編ということを検討せざるを得ない状況になる

ということもありますし、今回の区の再編については、将来の浜松を見据えて議論するというのが発端でありまして、当局側から言わせると、今回の区の再編は組織の再編、効率化ということでしたので、そういったところから鑑みると、なかなか天竜が現行区のままというのが本当にいいのかというところがあります。そして、市議会議員も人口割、面積割からすると、3人というのは多い話だと思っておりますが、例えばこれは市全体で考えたときに、天竜区で市議会の委員会をやるということも1つのアイデアではないかと思えます。そういったことをトータルしますと、複合がいいとうちの会派としては結論づけました。

ただ、危惧もあります。実際には複合にすると、現状の天竜区より広範囲になるということで、面積的には非常に厳しくなるというのは確かにあるのですが、まちづくりの人の関わり、そういったことを考えると、複合にして様々な新しい意見を取り込んで、天竜区としてどのようにやっていくかというところが大事かと思っております。

以上です。

**○高林修委員長** それでは、次に市民クラブ、岩田委員。

**○岩田邦泰委員** 市民クラブとしましては、当初から天竜単独の2区ということで、形的にもずっと推させていただいていた経過があります。そのときにもお話をさせていただいていますが、大体理由は、先ほど来自民党浜松さんや創造さんから出て、また重複をしてしまうわけですが、やはりどうしても地域特性という部分では、他の地域とは全く違うということが明らかでありますし、近年のこの大雨という中では、本当に災害の形も毎年道路が寸断されるといったようなことを考えますと、ここはやはり施策としてもかなり踏み込んだものを独自でやっていく必要があるかと思っております。

それに加えて、議論の中で出てきた副市長の設置といったところに併せて考えますと、副市長の設置と併せて単独にしていくといったことは非常に合理的であると会派としては結論づけさせていただきましたので、単独といった形になっております。

以上です。

**○高林修委員長** それでは、日本共産党浜松市議団、酒井委員。

**○酒井豊実委員** 会派としての取りまとめの結論は、天竜区は単独で存続していただくということにあります。

理由、流れについては、まず何よりも住民による意思決定、これがまず第一に重要であるということです。住民による意思決定といいますと、さきの住民投票によって多数の天竜区民が現行区ということ、天竜区は単独でということを選択したと、そのように思っておりますので、これが第一の理由です。小さくてもきらりと輝く天竜区づくりという方向を多くの方々が見ていると感じております。

それから、2つ目には、5月18日付で天竜区の自治会連合会が行政区再編に対する要望書を提出されましたが、これは単なるペーパーではなくて、それに至る過程の中で単位自治会長さん、自治会の皆さん、それから5つの地区の自治会の会長さんが集まって何度も会合を開き、検討した結果、この要望書にまとめられたと。これを最大限、最優先で尊重するということが重要だと、そんなふうに思っています。

とりわけ広大な森林面積を有するという点では、水源涵養、CO<sub>2</sub>の吸収、防災という点ですけれども、山はただそのままほかっておけば、山の形態で機能を発揮するわけではなくて、その山を守り、管理する、除伐・間伐・枝打ちをしていかなければならない。その守り手、働き手は誰かということです。その点からしても、やはり今皆さん、各森林組合を含めて決意を固めているという状況にある。外か

ら雇用された方も含めて、地域の力が今蓄えられて、新たな発展をしようとしているというところはぜひ見ていただきたい、そんなふうに思っております。

それから、災害の点ですが、8月26日の第5回の天竜区協議会でも天竜土木整備事務所から報告されたわけですが、実は幹線道路が8月豪雨で寸断されました。県道で3路線、3か所、それから市道で2か所、ちなみに私のところを通っている熊から東栄町、浦川へ至る主要地方道天竜東栄線も東栄町の静愛橋の手前約300メートルのところで大陥没が発生して、今全面通行止めということで、住民が目の前にある東栄医療センターに通うのにも難儀している。買物も難儀で、ある方は内職も切られてしまった。こういう状況で、私自身も2回ほどそこを歩いて住民要望を聞き、佐久間の市役所の出先の皆さんも加わりながら住民対応するというので、いかに地域に密着した行政、区役所、それから協働センターあるいはふれあいセンターの力が住民の生活を守るかというところは、まさに北遠、天竜区の中に現場があると。今住民そのものが耐えながら暮らしを守る戦いを続けているという状況であります。こういう中で天竜区自治会連合会の要望書について、これをしっかり実行するのが責務だと、そんなふうに感じております。

それから、最後の1点ですが、これは皆さん御案内ですが、8月26日に開かれました第5回の天竜区協議会で浜松市過疎地域持続的発展計画の答申が行われました。その中で10ページには、地域の持続的発展の基本方針がうたわれており、今後の問題点にいかに関心するか、その住民の方向性、市あるいは区役所と協働してそこを開拓していくという方向性が示されていて、あと後段で具体的な計画が述べられているわけですが、やはりこれを確実に住民とともに実現することによって、天竜区、あるいは過疎地域の未来が拓かれるし、それをやらなければならない、そういうことだろうと思いますし、第5回の天竜区協議会ではそのことも含めて意思を表明したと、そんなふうに思っています。

皆さん方からいろいろ心配の声、ごもっともな声も上がりました。しかし、私も地域住民の1人として内発的な発展の展望ありと、新たな住民も移住してもらい、協力していただく中で、必ずそれを拓かなければならない。急激な人口減のシミュレーションだけでなく、それを食い止めて、新たに巻き返す、そういう力を今後さらに勢いよくつくっていかなければならない。そういう意味で我が会派として、以上の理由から天竜区は単独で存続をするという結論で報告いたします。

以上です。

**○高林修委員長** 今、各会派から協議結果を発表していただきましたが、確認すると、自由民主党浜松は単独、公明党は複合、創造浜松は単独、市民クラブは単独、日本共産党浜松市議団も単独ということになりました。

まず、大体おっしゃっていることはほとんど一緒のような気がします。単独であっても複合であってもと思うのですが、まず、各会派の御意見に対して何か、委員間討議ということで各会派のお話を聞いた上で何かお聞きになりたいことはありますか。

今申し上げたように、数字で言うと4会派単独、1会派複合ですが、松下委員、少し御発言あれば…、皆さんの御発言をお聞きになっていかがですか。

**○松下正行委員** 今、各会派からの意見では圧倒的に単独ということでしたが、最終的には公明党としても了とするしかないかと思いますが、1点、当局に確認というか、単独にしていく方向性の中で聞きたいことがありますので、それを述べさせてもらいますけれども、いいでしょうか。

**○高林修委員長** それでは、できましたら1点1点、答弁者を指名していただきながらおっしゃっていただけますか。

**○松下正行委員** まず1点目は、先ほどの複合の理由のときにも述べさせていただきましたが、本当にまちづくりというのは行政だけではできないと思っていますし、やはり人が大事だということで、天竜の方々と浜松市行政が一体となってといいますか、協働でしっかりまちづくりを推進していくという、そういったことを今までもやってきたと思いますが、単独になった場合は、担当副市長が就くということも当局からの提案でありますので、そこら辺をしっかりとこの場で明言していただけるとありがたいと思いますので、ここは副市長にお伺いできればと思います。

よろしく申し上げます。

**○鈴木副市長** これまでも皆さんと協議、または協力して天竜区の特性を踏まえて、いろいろな事業を展開してきました。予算についても条例措置についても、先ほど話題になっていました過疎対策についても、言ってみればほかの地域にない特殊事情を踏まえた特別な事業、特別な配慮、特別な支援をしてきたわけです。

今後過疎がますます進むという前提に立つならば、さらにそうした事業を充実強化していかなければならないという認識を持っていますので、そのための方法として副市長の配置を提案したところでございます。もちろん地域の振興とか地域のまちづくりについては行政だけでは対応できませんし、あくまでそこに住んで、また暮らしている人、生活している人が中心となって、そうしたまちづくりなり地域振興を担っていかなければならない、そういうある程度責任とは言いませんけれども、役割の一端を担っていますので、これからは行政は地域の皆さんといろいろな協議、お話し合いをする中で、議員の皆さんの支援を得て、まちづくりなり地域振興策を図っていきたいと考えております。

**○松下正行委員** では、2点目ですが、これまでも当然、天竜区に対してはオール浜松としてしっかり支えてきたということもあると思いますが、単独になった場合、副市長の担当について、さらにしっかりやっていただけるという力強い言葉を副市長からいただいたと思います。

先ほど、各党派が単独という理由の中で、天竜というところが浜松全域の中ではやはり特別な地域ということで、私たちもそれを否定するわけではありません。ただ、今までも天竜に対しては一生懸命やっていたと思います。先ほども言ったように、人口減少が進んでいくという中で、またさらに天竜に関しては行政側の一段の努力をしていただきたいという思いで、浜松市全体の一律の制度から、天竜に限っては独自の様々な制度、そういったものを住まわれている住民と協議、懇談する中で、ぜひともそういった仕組みをつくっていただいて、まちづくりに貢献できるようにしていただければということを区再編推進事業本部長にお伺いしたいと思います。

**○区再編推進事業本部長** 今、独自の制度、仕組みづくりという御指摘をいただきました。ここも今後に向けて引き続き環境の変化、様々柔軟に対応できるように既存の制度を常に見直してということは必要かと考えております。これまでも中山間地域のまちづくり事業の交付金の制度でありますとか、先ほど副市長からお話がありましたけれども、独自の条例をつくって、例えば遊休財産の有効活用であるとか、細かい規定はありますが、中山間地域において起業したい場合の貸付金の制度であるとか、天竜区の場合でいきますと、原材料支給事業と言って、道普請などに原材料を補助するという独自の制度もあります。そういった様々な制度、これまでも当然やってきておりますし、今後もより環境が厳しくなる、状況が変化するといったことは当然柔軟に対応していくべきものと考えております。

**○松下正行委員** 最後になりますが、もう1点、区再編推進事業本部長にお伺いしたいのは、やはり天竜がほかの浜松市内の区域、地域とは少し違うという様々な問題があって、先ほども複合化の理由に少し挙げさせていただきましたが、現状の課題も当然あります。例えば交通弱者の問題ということで、

今現在もMa a Sとか、市としての様々な取組をしっかりとやっていただいている現状もありますが、今後もそこはしっかりとやっていただきたいということと、先ほど来もあるように、ほかの区と比べると、道路、それから橋、そういったものが圧倒的に多くて、こういった夏の時期になりますと、最近の豪雨、それから台風等々でかなり土砂崩れがあるということで、そういった災害の対応、これもさらに強化していただければと思いますし、行政の施策の中では天竜区が高齢化率も高いということで、福祉の充実ということもぜひしっかりと取り組んでいただいて、天竜に対して、単独になるのであれば、特段の配慮をぜひお願いしたいと思いますので、そこら辺の決意があれば話していただけるとありがたいと思います。

**○区再編推進事業本部長** 今、御指摘いただいたこと、あらゆる行政分野にまたがることについて課題が大きいということだと受け止めさせていただきました。当然これまでも様々な分野で課題対応していかねばいけないということがあります。そうした中でも中山間地域振興計画——これは理念計画でございますけれども、分野横断的に主要施策を定めまして、今、松下委員から御指摘いただいたようなことをしっかりと、市役所も含めてオール浜松で取り組んでいくことを進めておりますので、引き続きそこはしっかりとやっていくということでございます。

**○松下正行委員** ありがとうございます。

力強い話、決意がありましたので、公明党の会派としては、ここは了としていきたいと思います。

**○高林修委員長** ありがとうございます。

ほかにはよろしいでしょうか。

**○加茂俊武委員** 松下委員に質問ですが、独自の様々な制度というか、それをやっていくというのが単独の場合はしやすいと思います、区があるので。複合の場合でもそれができるとお考えですか。単独のほうがやりやすいけれども、複合案を提案されていますが。

**○松下正行委員** 我々は、やはり人を中心に考えていますので、現行の天竜区が単独ということになるとそのままです、言い方は悪いですが、新しい人が入ってこないというか、今でも例えば山里いきいき応援隊とか、外部から浜松市内からも来ていただいているということはありますが、区民として人が増えて、見方が違うといいますか、そういう中でいろんなアイデアが出たりとか、そうすると地域の声としては活性化になっていくのではないかと期待して複合がどうか、というところを会派で議論してきました。

単独でいくと、どちらかというと今までと同じですので、力的には行政のほうが強いという感じを受けています。だから、そこを市民のほうが新たな区割の中で自分たちの地域は自分たちで頑張ってやっていこうという、この意識改革ができるのではないかとこのところにつながって、それが行政と一緒に協働でいい施策につながっていけばいいと、そのように考えていたものですから、複合ということでは言いました。

**○加茂俊武委員** そうすると、独自の様々な制度とか、例えばさっき本部長が言った条例とか、そういうのはやはり単独で区があったほうがやりやすいという考えはそれでよろしいでしょうか。交流のために複合という……。だから、区が単独のほうが独自の制度とか条例は地域特性に合わせてできるという考えはそれでよろしいかどうかだけ。

**○松下正行委員** それは考え方だと思うので、我々が考えているのは、複合にすることによって、今まで区民ではなかった人が加わって、新しいアイデアが出て、今までの考えとは違う方向性の施策が市民主体から行政側に提案して、そういったことが決まっていけば変わっていくのではないかと想定

の下ですけれども。うちの会派としては、いろいろ議論する中で、そう考えているので、それは単独だからできるということにはつながらないと思っています。

以上です。

**○加茂俊武委員** 分かりました。何となく認識が分かったのと、あと、区の担当副市長の件は我々の会派の中でまだ意見もまとまっていませんし、特に副市長の役割、それから区長は何をするのかというところが一切分かっていないので……、先ほど副市長の発言では、多分単独区にすれば副市長をつけますとは言っていないとは思いますが、そこはまた、これからしっかりと議論する必要があるという認識で我々はいますので、その辺ちょっと誤解があるような発言が先ほどあったような気がするのです。さっき力強い言葉を頂きましたという発言があったような気がして……。

**○松下正行委員** これは、この特別委員会で副市長の提案があったということでそのように言っただけの話で、別にここの場でそれが決まっているわけではない認識は私たちも持っています。それは大丈夫です。

**○太田康隆委員** 松下委員に確認しておきたいのですけれども、先ほどの発言の中で、天竜区はほかの区と違うところで施設の多さということを指摘されました。それについては重複施設が多いという認識で公明党さんはいるといふことでもいいですか。

**○松下正行委員** 現状多く、今までもだんだん統廃合をやっていますので、そういう流れかと思えます。施設数だけ見ると、現行の7つの区で比べると天竜が圧倒的に多いという現状があるということの発言ですので、これからそれを統廃合して集約していくし、同じようなものはダブらないようにしていくのは当たり前のお話なので、そこは当然やっていくべきだと思いますが、たくさんあるということはそれだけ維持管理費がかかるということでも述べさせてもらいました。

**○太田康隆委員** もう一つ、市議会議員の定数です。政令市の場合は区で定数を決めていくということだけれども、複合がいいというお話のときに、天竜区に与えられている3人枠がちょっと多いというように、そういう御発言だったと思いますけれども、その辺についてはそのように認識されているということですか。

**○松下正行委員** 面積率とか人口比率で言うと、現行の市議会議員は天竜区においては多いという感想を述べただけで、複合になったときは当然定数が増えると思っていますし、当局側は単独になった場合、副市長が担当に就きたいという提案もあるということも鑑みると、例えば浜松市議会でも天竜区へ行って、委員会みたいなものをするということも公明党的には一つの提案ということで先ほど言わせてもらったので、そういう関係です。

**○太田康隆委員** 議員定数はこれから区の再編の中でまた我々議会が議論していかなくてはいけないことだと思いますけれども、7区体制の中で合併後、議員定数、当時65名からずっと減らしてきて、今の46があると思っています。そのときに我々がいつも配慮してきたのは、やはり天竜区の持つ特殊性です。広大な面積を代議員である議員がいなくなってしまうのは困ると。やはりそこら辺を考慮しながら、今の最新の議員1人当たりの有権者数で見ても、ほかの地域は大体1万4000人から1万5000人ぐらいの有権者数だけれども、天竜区については8100人ぐらいの有権者数です。ですから、定数3ということで、これは、浜松市としては非常に大切なことだと思っています。やはり物理的に900平方キロという広い中で、平地と同じように、人口密集地と同じように有権者数で判断はなかなかできないだろうと。ですから、今回天竜区単独と決まっていけば、またそれもこれからの議論にももちろんなるのだけれども、そういうところにも配慮できるという意味では非常にいいことだなと私は思っているわけで、それで確



認をさせていただきました。

それから、先ほどの創造の太田利実保委員、それから酒井委員もちょっと触れていたと思うのですが、地域に住んでいる住民自らがやはり意識して、この地域を何とかしていこうという、そういう責任もあると。そこは非常に重要なことだと思っていて、最初に太田利実保委員にお聞きしますけれども、天竜区が多面的な機能を持っていて、それは当然浜松市民みんながそういうふうを考えてバックアップしていかなければいけないことだけれども、地域に住む住民もこの地域を何とかしていかなくてはいけないという松下委員も意識改革というところで実は触れられているのですよね。それはすごく重要なことだと思いますので、その辺もう一度太田利実保委員に、地域住民の意識が大切だということは、そう認識されているということでもいいですか。

**○太田利実保委員** おっしゃるとおりです。確かに特別な地域ではありますけれども、そこに住む人、その人たちによって当然地域がつくられていくし、いろいろな関わりはあるにせよまちづくりがされていくということです。ですから、その住民が主体になるということは当然のことですし、先ほども言いましたけれども、例えば地区の社会福祉協議会だったり、自主防組織、そうした地域でしっかりと担っていくべきもの、そうしたところは人口減少したとしても、その地域の中で、当然広大な地域ですから、単位としては旧の5市町村、春野・佐久間・水窪・龍山、それから旧の天竜市、そうしたところをそれぞれ拠点を持ちながら考えていくということが、一番大事だろうと思っているのですけれども、そういったところの住民と協働センターの関係性も大事にしながら、共通の課題を持ったその5市町村を束ねる形の天竜区役所というものを維持しながらということが大事なことかと思っています。

繰り返しますけれども、それについては住民が主体となってやっていくことというのが重要で、前にも太田康隆委員から雲南市とか、その辺の話が出ました。僕も前に一般質問で特定地域づくりの事業協同組合という、そんな話もさせていただきましたが、いろいろな形があると思うのですね。そういったところを行政も示しながら、何とか地域で賄っていけるものは賄っていくという方向性を見いだしていくということが大事かと思っています。

以上です。

**○太田康隆委員** 酒井委員からも地域住民の意思というあたりで御指摘がありました。特に最後に触れられた過疎地域持続的発展計画、ここら辺についてはまさしく地域の皆さんの強い意思がないと、なかなか地域づくりというのは進まないと思いますので、その辺も含めて、その地域住民の意思というあたりをお聞かせいただけるとありがたいです。

**○酒井豊実委員** 北遠地域、山の人間、村の人たちは自分で自分の暮らし、生活、家族を中心として守るのだと。俺たちの村は俺たちの力で守ると。それできれいに守っていくと。みんな協力していくという独立意識、それから自尊心も非常に強いです。それだからこそ、こういう急激な過疎化の中でも守り続けて、地域を美しく保ってきているという自立と協働ですよ。その中で健康的な暮らしを維持するという点では、私の住んでいる熊地区はNPO法人に発展した夢未来くんま、これを早々と全国の農林水産大臣賞、天皇杯を獲得した地域ですから、自立的に頑張って、組織づくりをばんばんやって、新しい基軸、アイデアをどんどん取り入れてそれを検証する。自ら試してタクシーを走らせる。自ら物をつくって食べてもらう。

それから新しい組織、今、ノルディックウォーク、いろいろ美しいむらづくりを始めているので、そういう点では、それがずっと継続しているから、それは当たり前のことです。当たり前の活動であって、ほかでやっているのを新たに研修しても、いや、そんなことはもうどうの昔からやっているよというこ

とになるわけで、天竜区の協議会で前々回そういう研修をやったときも、やはり自治会委員からは、もうやっているよという意見も出るわけですから、それが北遠全体、天竜区全体では佐久間のがんばらまいか佐久間は、大規模合併したときから、自ら守っていく地域づくり組織をつくらないと駄目だよ、ということであつたわけです。あと、NPOは龍山も春野もあるし、水窪は小さなNPOとか、本当にきらりと輝く人たちがごろごろいて、それぞれ頑張っているわけで、それを今度は新たな感覚で、先ほど太田康隆委員も言われた過疎地域持続的発展計画、それを一つの指針としながらも、それに思い切り肉づけをする。この発展計画よりもさらに進んだ実践も既に始まっているので、それに加えて、私たちの地域では、県も新たな提案をしてくれて、今年度から新しい組織づくりと実践活動が始まっています。まさに浜松市から県政、地域住民が一体となって、外から人を呼び込んでくる。そして、新たに定住した方も、熊地区で子供が産まれたということもありますので、そこに展望を持っておりまして、ぜひよろしく願いいたします。

**○太田康隆委員** 私が何でお聞きしたかという、区の再編の話の中で天竜区は単独でいくのだけでも、そのことで過大な期待をしてもいけないし、行政は継続してやっている話でして、もう一度浜松市民、議会も含めて全体が天竜のことに思いをはせて、どうしたらいいかということを考えるいいチャンスにすべきだと思っているのです。

平成17年に合併した後も、例えば春野町の協働センターで言いますと、旧春野町の役場を建て替えるというときに、歯科診療所を協働センターの中に設置して、公設民営で歯科の治療ができるような、そういう配慮をしてきたわけです。また一方で、地域力向上事業は、区の事業として天竜区の産業まつりをやってきたのだけでも、地域ですつと維持してきていた信康まつりが、予算が削られて、産業まつりの中に組み込まれてしまったりとか、いい面と影の面とが混在しているのです。

先ほどの松下委員が指摘されたような様々な施設がたくさんまだ残っているということも、ある意味ではそれを活用していくというふうを考えればいいことであるかもしれないので、いずれにしても、地域に住んでいる方はそこから移れないわけですので、その方たちを中心にして、市もきちんと配慮して、施策としていかに展開できるかということこそ僕は重要だと思っています。だから、何でも区の再編とか、天竜区単独でいけば全てが解決するというのではなくて、何が課題で、どういうふうに行っていくかということを経営して議論していくことが大切だろうとつくづく思いますので、それでお聞きしたわけです。ありがとうございました。

**○高林修委員長** ほかに御発言のある方。

**○鈴木育男委員** 皆さんの話を今聞いていて、1つだけ意見というか、思いをちょっと言わせていただきたいと思うのですが、天竜区は単独という方向が見えてきて、それはそれで私は望んでいた方向なものでよかったと思うのですが、皆さんのお話の中で、もう一つ、天竜区が旧5市町村という、それぞれの違いを分かってもらわないと、という感じがしているのです。簡単に言うと、例えば旧天竜市、僕らから言わせれば街ですよ。ある意味街です。確かに熊とか、ほかにも百古里とかもあるけれども、基本的に街ですよ。今後やりようによっては何とでもなる。天竜川を挟んでいるだけで、浜北と変わらないわけですよ。道路もよくなったし、いろいろな条件が全然違うという。それに比べて、まだ春野の場合は、恵まれた中山間地域、急峻な山あいにはばりついてみたいイメージはないし、ちょっと桃源郷みたいな雰囲気があって暖かいところだなという感じがする。佐久間・水窪、僕らから言うところとまた雰囲気が違うというところがあります。そういったところも、これからどうしていけばいいのかという……、龍山も感覚的には同じような感じがします。ですから、それぞれが天竜区の中でも旧5市

町村がみんな違う形を持っている。そういった中をどうするのか。

例えば、これが単独ではなくて複合でなんていうと、もっと違う思いの中で、私は少なくともしばらくは絶対無理だと思うのですよ。それぞれの思いをみんなが分かり合って、さっき言ったように、市民協働だの何だのと、それで一生懸命頑張っていることもよく知っているし、そういったことがあるものですから。要するに、人の気持ちが分かり合える領域の中で、同じ方向を見ることができる領域の中で、これからの発展の一つの方向性というか、持続の方向性というものを探っていく。その意味でも天竜区は単独でこれから頑張っていく。あとそれ以外の浜松市がどういう側面で援助していくか。それが今度は逆に我々に与えられた役割だと、そういうふうを考えていただきたい。ですから、副市長の話は別にしても、いずれにしても、浜松市全体で支えていくのが我々の責任だよというふうを考えていただければありがたい、こんなふうに思っておりますので、よろしくお願ひします。意見です。

**○稲葉大輔委員** 公明党さんの複合案の理由のところ、聞き漏れがあったら申し訳ないですけども、人口が減ったときに改めて区を再編する必要があるのではないかと話と、行政区再編は効率化なので、現行のままだと難しいという御発言があったかと思いますが、これについて何かもう少し踏み込んだ見解などあればお聞きしたいのですが。

**○松下正行委員** 今回の区の再編の議論も10年以上やっているわけで、先ほども言ったかもしれませんが、浜松市の将来を見据えて区の再編をやると。当局から言わせると、本当に効率的な組織の再編という言葉がよく出てきて、前期の議論の中では削減額だとか、そういう効率のことばかり言われたという記憶があって、我々は区の再編というのはそればかりではないなと思っていて、先ほど来ずっと言っている、人がどう変わっていくかということが一番大事だと思っていて、例えば天竜区が現行のまま単独でいった場合に、人口がどんどん減ったときに、本当に1つの区として存続できるかどうかという中に、また区の再編というのが議論されるようになるのではないかとこのことを危惧しているということです。

ですから、危惧している部分と、そうなればそうなったで、また区の再編は検討しなければいけないだろうという、そういう思いと両方あるわけですけども、それで将来的な課題として1つ挙げたという、そういう意味合いですけども。

**○稲葉大輔委員** 効率化については、複合化したほうが効率化されるというような意味合いでいいですか。

今、いろいろな意見が出た中で、私も同じ意見もありましたが、今のところだけについて意見をさせていただければ、やはり今回単独案、我々合理的だと合意できているのは、効率化が全てではないと思っています。自然環境ということに関しては、極めて非効率でもあり、そして人口では判断できない非常に大きなお金もかかるし、そして効率化できない。人の手もかかるというようなことが区を再編して解決するものではないと、再編というか合区して大きくなって解決するものではないと思っています。ここは単独でしっかりとした人の配置や予算、この人の配置というのは行政マンだけではなくて、地域の人たちの頑張るもそうですけれども、よそからこの天竜区に住みたいと、あるいは力になりたいという人が入ってくるような施策も含めて新しいビジョンを示していくことで、天竜区が今課題を持っているものを解決しやすくなるのではないかと考えています。

先ほど過疎地域の特措法の話も出ましたけれども、まさにこの議論、ここでどう地域の人たちに見せていくかというのは非常に大事だと思っていますので、ぜひそれも含めて、単独案でよかったと思っただけのようなことをこれから提案できればと思います。

以上です。

○高林修委員長 ほかはよろしいですか。

[発言する者なし]

○高林修委員長 それでは、今日は天竜区の取扱いについて決めるということでございますので、皆様の意見は伺いましたが、ここで決定をしていきたいと思えます。

様々な意見をいただきました。また、これは数の論理ではないと思えますが、皆様の御発言、思いをお聞きした上で、天竜区の取扱いについては単独ということによろしいですか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○高林修委員長 それでは、本委員会は天竜区の取扱いについては単独の取扱いとするということに決定いたします。

単独とすることになりましたけれども、確かに今日は天竜区の取扱いですが、皆様の様々な意見はこれからいろいろと協議をする上での大切な御意見だと思えし、また、複合案を出されていた公明党さんのほうからもいろいろな御要望もありましたけれども、今後の協議の中でまた具現化していきたいと思えますので、よろしくお願ひします。当局は、しっかりと今日の各委員の意見を受け止めていただきたいと思えますが、特に副市長、何かよろしいですか。

○鈴木副市長 特にございませぬ。

○高林修委員長 それでは、本日の協議事項は一通り終了いたしました。

次回の委員会は、9月8日水曜日、午後2時からを予定しております。

協議の内容ですけれども、今後の7区自治会連合会及び7区協議会への中間報告に向けて、日程及び説明資料の確認を行いますので、御承知おきください。

以上で行政財政改革・大都市制度調査特別委員会を散会いたします。

15:05